

## 『児童教育研究』執筆要綱

『児童教育研究』（以下「本誌」）投稿論文作成に際しては、「『児童教育研究』発行規程」, 『児童教育研究』の執筆・編集に関する倫理要綱」および「『児童教育研究』執筆要綱」（以下「本要綱」）に従うこと。

### 1 原稿の体裁等

- (1) 原稿は日本語ワープロソフト（Microsoft Word）で作成し、A4判用紙に文と図表を挿入し、MS Word形式（docxフォーマット）およびPDF形式で提出する。
- (2) 本誌はA4判、縦置き、横書きとする。字数は1ページ49字×43行（2,107字）とする。児童教育学会ホームページで提供されているテンプレートを使用すること（余白は上30ミリ、下25ミリ、左右22ミリとなっている）。
- (3) 原稿の長さは、「研究論文」が本誌仕上がり8ページ以内、「研究ノート」が本誌仕上がり4ページ以内とする。表題、副題、執筆者名、所属、和文要旨（英語論文の場合は英文要旨）、キーワード、本文、図、表、資料、注、引用文献、参考文献、付記、謝辞などを含む。
- (4) 上記の上限ページ数に加え、論文本体の後に添付する英文（英語論文の場合は日本語）要旨に別途1ページを使用する。英文要旨には英語表題、執筆者名・所属、キーワードを英語で記載する。英語要旨は300 words以内（表題、執筆者名、所属、キーワードを除く）とし、投稿者の方で英語母語話者もしくはそれに準ずる者により校閲を受けておくこと。要旨は和文・英文ともに1段落構成で書くこと。
- (5) 本文の日本語フォントはMS明朝9ポイント、英数字はCentury 9ポイントとする。
- (6) 数字は全て半角とする。
- (7) 本文は両端揃えとする。
- (8) 図表の表題はMS明朝9ポイントで、通し番号と表題があること。図の表題は図の下左詰め、表の表題は表の上左詰めで表記する。
- (9) 英語の論文の場合、文末のピリオド、カンマ、コロンの後には半角スペース1つ空ける。
- (10) 参考文献表の表記については本要綱で指定されたフォーマットを用いる。
- (11) 日本語の論文の場合は、句点を「。」、読点を「,」に統一する。
- (12) 原稿のフッタに、ページ番号を付する（中央寄せ、フォントはCentury 9ポイント）。ヘッダには何も記入しない。
- (13) 論文の要旨とキーワードの表記方法は以下による。  
（日本語論文の場合）
  - ①和文要旨は、250字以上300字以内、MS明朝9ポイントで作成し、本論の前に表記する。
  - ②英文要旨は、本論とは別に、300 words以内（表題、執筆者名、所属、キーワードを除く）、Century 9ポイントで作成し、表題、執筆者名、所属を記載する。
  - ③和文要旨・英文要旨ともに、3語以上5語以内でキーワードを設定し、それぞれの要旨の末尾に記載する。英語のキーワードで複数語からなるものは、それをもって1語とみなす。

(英語論文の場合)

- ①英文要旨は一段落構成とし、300 words 以内、Century 9 ポイントで作成の上、本論の前に表記する。
- ②和文要旨は一段落構成とし、本論とは別に、250 字以上 300 字以内、MS 明朝 9 ポイントで作成し、表題、執筆者名、所属を記載する。
- ③和文要旨・英文要旨ともに、3 語以上 5 語以内でキーワードを設定し、それぞれの要旨の末尾に記載する。英語のキーワードで複数語からなるものは、それをもって 1 語とみなす。

## 2 投稿手順

投稿希望者は指定された期日までに、下記の 1)~3)を編集委員会の定める原稿提出用サイトのフォームを通じて提出する。なお、原稿投稿の際には、図表も本文中に挿入されている完全原稿を提出すること。

- 1) オリジナル完成原稿 (MS Word と PDF の 2 ファイル、なお MS Word は docx 形式とする)。  
英文 (本文が英語の場合は日本語) 要旨を論文末尾に添付すること。
- 2) 査読用原稿 (MS Word と PDF の 2 ファイル: 上記のオリジナル完成原稿から投稿者を特定できる箇所はすべてアスタリスク(\*)によって置き換えること。またファイルのプロパティ情報からも投稿者の情報は削除しておく。)
- 3) 論文の確認事項チェック済みの提出用チェックリスト (本学会ホームページに掲載している MS Excel 形式の「投稿前確認事項」ファイルに自己チェックした内容を記載)

## 3 原稿作成の通則

### 3.1 原稿の冒頭

原稿の冒頭には、表題、副題、執筆者名、所属を前述のポイント数で入れる。なお、表題は論文等の内容が明確に分かるようにし、「第〇報」等の表記は含めない。

### 3.2 倫理上の配慮

『児童教育研究』の執筆・編集に関わる倫理要綱」に従い、倫理的配慮が求められる研究は、必ず本文中に倫理上の配慮を明記する。

### 3.3 本文

(1)次のように書くことが望ましい。

- |              |   |
|--------------|---|
| ①はじめに/序論     | 研究の背景、研究を始めた動機を説明する。  |
| ②本文内容        | 研究の目的、研究の方法 (実験方法、調査方法、分析方法等)、得られた結果、知見、先行研究との比較、考察などについて、図表を用いて説明する。 |
| ③おわりに/結論/まとめ | 得られた結論や成果を簡潔に記す。また、残された課題があれば簡単に書く。                                   |

(2)本文は、研究の目的、研究の方法、結果、考察などを読みやすく記述し、章、節、項等で構成し、

それぞれに見出し文を設定する。章・節・項等には、I・II・III..., 1・2・3..., (1)・(2)・(3)..., の順で番号を付する。

### 3.4 大見出し (10 ポイント)

- ①大見出しは、MS ゴシックとし、中央揃えする。
- ②大見出しは、ローマ数字 (I・II・III...) を行頭につけ、全角 1 マス空けて記述する。
- ③「注」「引用文献」「参考文献」「謝辞」には行頭のローマ数字をつけない。
- ④大見出しと本文の間は 1 行空ける。

### 3.5 中見出し (9 ポイント)

- ①中見出しは、日本語、英数字ともに MS ゴシックとし、左詰とする。
- ②中見出しは、半角数字・半角ピリオドを行頭につけ、全角 1 マス空けて記述する。

### 3.6 小見出し (9 ポイント)

- ①小見出しは、和文は MS 明朝、英数字は Century とし、左詰とする。
- ②小見出しの番号は次の順とする。

(1) ○○○, ... (2) ○○○, ...	第 1 小見出し
1 ○○○, ... 2 ○○○, ...	第 2 小見出し
ア ○○○, ... イ○○○, ...	第 3 小見出し

### 3.7 図表 (表題は 9 ポイント)

- ①図 (写真を含む) と表は白黒またはグレースケールで作成する。
- ②図 (写真を含む) と表は左詰めで配置する。
- ③図 (写真を含む) と表には、それぞれの通し番号を付するとともに、必ず表題をつける。通し番号の付け方は次の様にする。  
図 1, 図 2, 図 3, ...  
表 1, 表 2, 表 3, ...
- ④図の表題は左詰めで図の下に、表の表題は左詰めで表の上を書く。
- ⑤図表の注は、それぞれの下に左詰めで書く。
- ⑥図表の周りへの文章の回り込みは可とする。

### 3.8 本文中の文献の引用

- ・本文中での文献の引用は、次のようにする。なお右肩に連番 (上付文字) を振ること。

(例) 徳永 (2003)<sup>1)</sup>は.....  
Hiramoto (2002)<sup>2)</sup>は.....  
.....と論じている (西川 1998)<sup>3)</sup>  
.....と論じている (Igarashi 2001)<sup>4)</sup>

- ・なお、著者人数によって、下記のような表記とする。

(徳永 2003)<sup>5)</sup>および (Hiramoto 2002)<sup>6)</sup>  
(西川・五十嵐 2003)<sup>7)</sup>および (Nishikawa & Igarashi 1999)<sup>8)</sup> (加登本ほか 2000)<sup>9)</sup> および  
(Kadomoto et al. 1998)<sup>10)</sup>  
・複数の引用をつける場合は、下記のようにする。  
(西川・五十嵐 1997<sup>11)</sup>, Niinuma et al. 1999<sup>12)</sup>)

### 3.9 注、引用文献、参考文献の記載

注、引用文献、参考文献は、それぞれの通し番号を付け、本文の最後に記載する。注は、本文中の該当箇所の右肩に、注 1)、注 2)の番号(上付文字)を付して明記する。研究会や学会等の大会・総会等における口頭発表、ポスター発表、資料等を元に分析、考察を深め投稿したものは、本文中に注をつけその旨を明記しなければならない。

引用文献は、本文中の該当箇所の右肩に 1)、2)の番号(上付文字)を付して明記する。なお、本文中で引用している文献のみを記載する。参考文献は、注、引用文献の後に記載する。なお、本文の参考とした文献のみを記載する。

#### (1) 「注」の記載方法例

注 1) 子どもたちの表現活動そのものを学生達に代替実践させているものであり、養成教育としての内容構成の視点、即ち子どもたちの表現活動をいかに援助・指導しうる学生を養成するかといった視点が明確でないようにも思われる。

注 2) 文部科学省、「幼稚園教育要領」、平成 20 年版。以下、本文中の引用はこの版による。

#### (2) 引用文献の記載方法

本文中で引用された順に記載する。半かっこをつけた連番を振ること。なお複数行にまたがる場合は 2 行目からは 1 行目(筆者名の書き出し)より全角 2 文字分インデントする。

○雑誌の場合：

著者名(発行年). 論文題名. 『誌名』 巻数(号数), 引用頁.

(例)

1) 吉田和人(2002). 幼児のボールキック運動の特徴. 『保育学研究』40(2), 50-51.

○単行本の場合：

(日本語の場合)

著者[あるいは編者名](発行年). 『書名』 出版社. 引用頁.

(外国語の場合)

著者[あるいは編者名](発行年). 書名. 出版地: 出版社(不明の場合は出版社のみ). 引用頁.

(例)

1) 高濱裕子(2001). 『保育者としての成長プロセス—幼児との関係を視点とした長期的・短期的発達—』 風間書房. 45-44.

(外国語の例: 書名はイタリックとする。)

2) Birkland, T.A. (2020). *An Introduction to the Policy Process*. New York: Routledge. 136-137.

3) Lave, J. & Wenger, E. (1991). *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*. Cambridge: Cambridge University Press. 25-26. (=1993, 佐伯胖, 状況に埋められた学習—正当的周辺参加—, 産業図書.)

○複数の著者によって書かれた単行本の特定部分を引用する場合：

(日本語の場合)

章・節の著者名 (発行年). 章・節のタイトル. 本の著者[あるいは編者名] 書名, 出版社, 引用頁.

(外国語の場合)

章・節の著者名 (発行年). 章・節のタイトル. 本の著者[あるいは編者名] 書名, 出版地 (不明の場合は出版社のみ) : 出版社. 引用頁.

(例)

1) 柴山真琴 (1999). ある中国人 5 歳児の保育園スクリプト獲得過程—事例研究から見えてきたもの—. 箕浦康子 (編著) 『フィールドワークの技法と実際—マイクロ・エスノグラフィー入門』 ミネルヴァ書房, 123-140.

2) Goodfellow, J. & Sumsion, J. (2003). Transformative Pathways in Becoming: An Early Childhood Teacher, O.N. Saracho & B. Spodek (eds.), *Studying Teachers in Early Childhood Settings*. Greenwich: Information Age Publishing. 60.

○電子媒体の場合

インターネット上の資料を引用する場合は、資料題名、サイト名、URL、資料にアクセスした日を記す。

(例)

1) HYK 第三者評価の特徴, 社団法人全国保育士養成協議会,  
<http://hoyokyo.or.jp/hyk/overview/> (情報取得 2012/2/12)

(3) 参考文献の記載方法

筆頭著者名 (姓) のアルファベット順に並べる。なお複数行にまたがる場合は 2 行目からは 1 行目 (筆者名の書き出し) より全角 2 文字分インデントする。

(例)

1) 繁樹算男・柳井晴夫・森敏昭 (1999). 『Q&A で知る統計データ解析—DOs and DON'Ts—』サイエンス社. 44-45.

2) 津守真 (1997). 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房.

4 和文要旨と英文要旨

(1) 和文・英文要旨は目的・方法・結果・考察を含めて本文の内容が理解できるよう簡潔に書くこと。  
和文・英文要旨ともに 1 段落構成で書くこと。

(2) 英文要旨は、ネイティブスピーカーもしくはそれに準ずる者の校閲を受けること。

## 5 作成上の留意事項

- (1) 記述は簡潔かつ明瞭にする。本誌読者の多様な専門的背景を念頭におき、記述形式に注意する。
- (2) 表記については、引用や固有名詞など特別の場合を除き、常用漢字表やその付表に従った現代用語法、現代かなづかいとする。
- (3) 専門用語については当該専門分野の「学術用語集」等の辞・事典類によることを旨とし、学界で定着していない用語の使用に当たっては注記を加える等の方法をとる。また、数値・数詞・単位記号などの表記は、仕上がりが横組みであることを念頭において読みやすい形に統一する。
- (4) 固有名詞以外の外国語は、できる限り訳語を用い、必要な部分は初出の際のみ原綴を付する。

## 6 投稿の手続き

投稿者は投稿前に本学会ホームページに掲載されている「投稿前確認事項」の MS Excel シートを用いて投稿論文の書式が投稿要綱に準拠しているか確認を行い、原稿提出用サイトのフォームを通じて提出すること。論文の体裁については、本学会ホームページ内に掲載している「投稿原稿フォーマット (ace\_posting\_format.docx)」をダウンロードの上、参照すること。

投稿前には論文が本要綱に準拠しているか本学会ホームページ内に掲載している「『児童教育研究』投稿前確認事項 (posting\_checklist.xlsx)」にて確認すること（このチェックリストは論文投稿時に合わせて提出する）。

## 7 掲載料

審査の後に掲載が決定した投稿者は論文 1 本につき掲載料として、定められた期限までに編集委員会が別途指示する口座に 5 千円を納入する。なお、この掲載料には抜き刷り代も含む。

## 付則

本要綱の改訂は、総会の決議によるものとし、制定の日から施行する。

本要綱は 2021 年 6 月 6 日より施行する。

本改訂要綱は 2022 年 6 月 5 日より施行する。

本改訂要綱は 2023 年 6 月 11 日より施行する。